

あけ水をやる。根っこに当たるように水をまく。奄美群島では、農水省がこのドリップライリゲーション設備の導入に補助金をつくったが、一戸も利用しなかった（1ha当たり20万円、農家負担なし）。

土地が足りなければ、生産性を高めようという発想が大仕事である。生産性を高めて土地の余裕を生み出し、野菜を作るとか工夫を考えるべきだ。沖永良部は砂糖キビを減らして花を作るようにしている。

沖永良部の花の95%は、今は切り花です。ゆりの球根は5%しかない。球根は1ha作っても400万円しかならない。切り花は1500万円にもなる。球根をつくっているのはお年寄りだけ。原則的には切り花です。生産性が3倍か4倍も高いからです。沖永良部が徳之島の2倍も土地生産性が高くなったのは、砂糖キビを減らして花にシフト、さらに球根から切り花にシフトしたからです。

同じ花でも球根を減らし、生産性の高い切り花を作っている。経営」という発想を持っている。今の

時代は、何を作るかは自由なんだから、生産性を高めるといふ経営者思考を持つということ。サトウキビの土地生産性を高める（単収を増やす）と耕地面積が増えたことになる。そうすると他の物も作れる。じゃがいももかぼちゃも里芋も作れる。所得も増やせます。同じ島の面積の生産性が高まり、仕事量も増えて人口も増えるということになるのです。

3点目は中国人観光客の受け入れです。中国への輸出も考えたい。中国の人たちは食の安全性を考えている。食べ物では安全、安心、おいしいものを求めている人がいっぱいいる。中国で



は赤ちゃん用の粉ミルク、日本製を値段が5倍高くても母親は買う。経済発展で高所得者が増えているからです。日本に来る観光客はお土産に粉ミルクを買って帰る。徳之島のじゃがいもを中国に輸出することができたら買うんじゃないでしょうか。徳之島のジャガイモも中国が買ったら足りない。粉ミルクの例でいうと、中国の子供は1600万人生まれている。日本は100万人しか生まれていない。粉ミルクも16倍必要です。半分は国産、半分は輸入している。日本の生産量の8倍も9倍も中国は輸入している。中国に輸出することに目をつけたらどうか。

観光客も、中国からの観光客が増えるようにする動きは、世界各国の観光行政の課題です。日本でも中国からの観光客を期待している。徳之島も中国を狙えばいい。中国に一番近いのは奄美大島であり、徳之島である。遣唐使時代（1300年前位）、奄美は東アジアの交流拠点であった。観光も物産も、中国への輸出に

目を付ける、中国を狙えばいいと思う。観光については、島伝い観光、高速船観光を考えるべきと思う。高速船だと各島30分で繋がる。「民間版奄振」でこの提言を出したが、それを遡ること10年、じつはこのアイディアの元祖は徳之島である。瀬戸内町観光協会と徳之島3町の観光協会の合同研究会での提案が元祖（1993年）である。徳之島と加計呂麻をつなぎ、フェリーで古仁屋、住用のマングローブ、名瀬とつなぐ。高速船で島伝い観光ができるようになれば、旅の行動半径が広まり、観光客が増えるであろう。島伝い観光の考え方の元祖は徳之島にある。もう一度、考えを取り戻したらどうかと思う。

4点目はNPO法人徳之島「夢」振興会議に期待したいことです。情報を島に伝えること、シンクタンク機能、研究情報、マーケティング情報です。農業所得が倍增するような提言機能が大事と思う。

（記録者 松田健一）

徳之島料理と黒糖焼酎の店
東京恵比寿 居酒屋 大吉
大吉平造
 徳之島トリアスロン大会実行委員
 徳之島天城町観光大使
 〒150-0021
 東京都渋谷区恵比寿西1-7-11
 電話 03-3496-8904 FAX 03-3770-7790

内科・小児科・胃腸科
北鴻巣クリニック
 院長 **井上脩士**
 〒365-0073 埼玉県鴻巣市八幡田531
 TEL 048-596-1423 FAX 048-596-6139